

【様式第 4 号】

令和 7 年度 保土ヶ谷区障害者地域自立支援協議会 まちで暮らすネットワーク部会 ワーキンググループ 第 5 回 議事録	
日 時	令和 7 年 1 2 月 1 1 日 (木) 1 6 : 3 0 ~ 1 7 : 5 0
開催場所	ほ도가や地域活動ホームゆめ 2 F D 3 ルーム
出 席 者	夢 2 1 ホーム、恵和青年寮、十愛病院、基幹相談 (2 名) 計 5 名
欠 席 者	同愛会てらん広場/二次相談
開催形態	公開 (傍聴人: 名) ・ 非公開
議 題	<p><b><u>1) 施設見学について</u></b></p> <p><b><u>〇てらん広場の見学について</u></b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ GH 見学の件は OK (責任者は了解とれた)</li> <li>見学したい日程候補を出してくれば、てらん広場の方で調整する。</li> <li>(※12/12 基幹相談へ連絡あり)</li> </ul> <p><b><u>〇中井やまゆり園の見学について</u></b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見学を中井やまゆり園に申し込んできた。ほぼ大丈夫ではないか。1 月か 2 月ころか。</li> <li>(※夢 21 ホームより報告)</li> </ul> <p><b><u>2) 恵和の地域移行ケースについて</u></b></p> <p><b><u>【恵和】</u></b></p> <p><b>&lt;集中支援 2 ケース目の経過&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 強行ワーキングメンバーにも会ってもらった、恵和の集中支援の利用者 (強度行動障害の状態の方) が、12 月 1 日に地域移行した。</li> <li>・ 横浜市内の●区にある団地に入居。▲区の通所に通い出した。</li> <li>11 月には恵和入所内でも他害は起きていなかった。</li> <li>・ 地域移行した後、移行して初日ぐらいは飛び出しがあった。</li> <li>・ 現在は重度訪問介護が入り。経過は順調。</li> </ul> <p>毎日、恵和で支援していたがフォローアップ。ヘルパーさんは標準化が難しく、支援員に引継ぎをしながら対応している。</p> <p><b>&lt;集中支援 3 ケース目&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集中支援 3 ケース目は、12 月 10 日から、もともと恵和の本入所だった人を受け入れている。日程調整も兼ねて、3 か月入院してもらって恵和に戻り、集中支援を始めた。</li> <li>・ 数年前なら、「国立のぞみの園」で何とか・・・と思っていたようなケースだが、集中支援の準備を 3 か月させてもらって、受け入れた。</li> <li>・ 今回は、これまでと違い、まだ集中支援終了後の出先が決まっていないケースなの</li> </ul>

で、調整はこれから。

- ・これまでメインで関わっていた職員抜きで支援チームを組み立てたのも、新しい試み（バックアップはしている）。もともと、ご本人が本入所していた時に関わっていた職員でチームを組み、対応している。これも人材育成と思う。興味のある職員が増えてきた。
- ・職員からしたら、期限付きだから、支援のモチベーション保てるというのものもある。

### **【十愛病院】**

- ・崩れた時のバックアップ。明確な支援目標があるのが重要では？ 2 ケースである程度の形（パターン）が見えたのが大きい。

### **【恵和】**

- ・地域移行では、重度訪問介護の事業所が、よくこれだけの人材難の時代に、スタッフをそろえられるなあと思っている。

### **【恵和】**

- ・本人に、お茶を熱い、冷たい、ぬるいというのが伝わらなかったで、PECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム）で、絵カードで示すようにしたら、本人が落ち着くようになった。  
ただ、表出支援は取り入れ方が難しい。場面を切り出して、効果を本人が実感できる（ちゃんと伝わる）のが必要。

## **3) 夢21の地域移行ケースについて**

### **【夢21ホーム】**

- ・**F田さんが言葉を話すようになった。** ゆっくり話すように伝えていたら、「麦茶のみます」「ごめんなさい」「トイレ行ってきます」などの言葉が出るようになった。
- ・周囲の支援者も彼との会話を楽しむようになってきた。行動障害のひとつに「思いを伝えられない」ストレスがあると思うが、まだ他害が時々出る。
- ・他害が続くというのはなくなってきたが、何が理由で・・・というのがなかなか分からない。ごはんが彼は好きだ、と言う風に支援者は皆、彼の好みを理解していたつもりだが思ってきたが、「ご飯をなくそうとする」行為が見られる。
- ・ご本人は、ご飯に味をつけて食べる（例：目玉焼きをつぶして食べるなど）が、もしかして卵の黄身をつぶせず、ご飯に味をつけられなかったのが行動の乱れに繋がったのかもしれない。
- ・**F田さんは、大きな他害がなくなったのと、言葉が出だしたのがリンクしている。**
- ・F田さんの行動の変化を、中井やまゆり園の人に報告したら驚いていた。いまは自発的な言葉が出て、会話のキャッチボールができ始めている。

#### **【夢 21 ホーム】**

- ・これから、横浜市が 2 名体制の GH を立ち上げる。法人として手上げる可能性がある。基幹相談に入るように市が言って、今後基幹にも関わってもらう予定。
- ・F さんもその GH に入居が想定されている。行動援護もようやく毎週 1 回、二人体制で見つかったが、行動援護事業所がなかなか市内で見つからないのが、ご本人を受け入れている事業所（GH）としての悩み。

#### **4) 強度行動障害の方の地域移行について。ディスカッション**

##### **【恵和、十愛病院、夢 21 ホーム】**

- ・GH の総量規制が今後入ることになり、強度行動障害の状態にある人の地域移行にかかる受け皿としての GH の役割を考えていきたい。
- ・強度行動障害の状態と精神疾患を国は明確に分けていて、強度行動障害の状態にある人を、『精神疾患だから入院は出来ない』という所は、厚労省の『精神保健医療福祉の今後の施策推進に関する検討会』で 9 月に指針が示され、検討に入った。
- ・先日、施設間交流会 6 施設で話をしたが、福祉の視点やノウハウから見たら病院は患者への対応が不十分に見えてしまう。一方で、入所施設として「病院で受け入れてくれることで助かっている」感覚もある。
- ・病院にいる医療職に、地域（の福祉）で出来ている実践を知ってほしいという考えはある。

##### **<強度行動障害の人との支援パッケージについて>**

- ・行動障害の状態の人は、個室対応で受け入れていくしかない。支援方法のパッケージがないと、受け皿が作りにくいのは確か。
- ・集中支援で 1 つの筋書きが出来ている人を、優先的に支援ルートに組み込んでいけるとよいのではないかな。
- ・病院にしても入所施設にしても、滞在するのが一時的であってほしいが、その後の受け皿（移行先）が整備されていかないと、その流れが滞ってしまう。
- ・このステージは、この事業所、この地域で受け入れていくというルートが見えているのがベスト。

##### **<どのように支援の仕組みを構築するか>**

- ・強度行動障害があることで、どこも支援の手上げがない。そこを保土ヶ谷区役所主導で進めようとしている連絡会で、Dr の意見も組み込んで、考えていくのが、連絡会の役割か？
- ・連絡会は、壮大な取り組み。
- ・局が考えているのは、拠点機能の整備。

横浜市の弱みは、1 法人しか強度行動障害支援の選択肢がないこと。いろんな法人が地域支援MGに手上げしてくれるのが大事。

- ・ネットワークの仕組みを作り始めたばかり。事業所、法人的なつながりがあれば。

#### ＜強度行動障害の予防的支援＞

- ・予防的なところでは、子どものところから。療育センターとはつながっておきたいが、療育が切れてしまう。拾い上げるにしても、この切れてしまうのを、仕組み化しないと。
- ・児童の計画の強度行動障害のある人は、しっかり計画相談をつける仕組みが必要。
  - ➡いま、保土ヶ谷区内で計画相談の需給バランスが非常に悪い（基幹より）
- ・療育センターで重点的に関わるべき子供はある程度みえるが、就学期以降、そこをしっかりとつなぐべきところへつないでいくのは、けっこう大変
- ・強度行動障害の共通様式のアセスメントシートがあって、地域で共有できると、文書の形でつながりやすいのではないか
- ・区域では、西部療育センターとの連携を深めていく必要がある。  
子供の支援をがんばっているところと繋がることから、どう連携するか。
- ・うちに入っている F 田さんの場合は、行動障害が出たのは、中学卒業ころから。陰部を必要に出すようになり、母が拒否したところから始まっている。

#### ＜家族支援の重要性＞

- ・家族にも関わるべきだけど、家族以外の所での過ごし。行動の適正化も重要。
- ・いきなり家庭に支援者が入るのも難しい。学校とか家以外での過ごしにどう介入するか。自分の願望、要求がかなえられない、
  - ➡状態像が悪化というメカニズムではないか？
- ・家族支援では、家族側は自身が支援対象と認識していないので、合意なしには家族の構造に介入していくのは難しく、支援のイメージもできない。
  - ➡その一方で、個別に深く入っていかないと、家族の変化が生じないジレンマも。

#### ＜学齢後期の支援の薄さ／障害児→障害者へのギャップにどう対応するか＞

- ・学齢前期の相談の薄さが課題。現在用意されている、学齢後期の相談事業だけでは埋められないし、児童専門で総合相談窓口が不十分。
- ・18 才になるまでは学校はある意味、手厚い。逆に 18 才になると、自分のペースでなく、突然放り出される形。
- ・二次相談でも、家族機能の回復をやるけれども、すごく大変。ニーズは大きい。

### 5) 改めて、次年度に向けてワーキングの進め方 意見交換

#### 【恵和】

- ・「現場を知る、実践を知る」ことを優先して、いろんなところに見に行き、話をした

い。それが人材育成につながると考えている。

- ・強行研修の保土ヶ谷版を作って、自分たちに必要なプログラムを考えたり、話しあって作り上げたら、面白いかもしれない。

#### 【十愛病院】

- ・地域で、医福連携の研修をしてもよいかもしれない。何でもかんでも、医療で出来るわけではないということを、しっかり伝えたい。

#### 【参加者一同】

- ・区域で、強行をテーマにした研修、おもしろそう。来年度、検討してもよいかも。

### 6) 本日の議論まとめ

#### ①（未検討のものが以下のもの）

・**まつかせ、松風学園の見学 → 恵和で問い合わせる**

・**芹が谷やまゆり園の見学 → 夢 21 ホームで問い合わせる**

・**旭区の「あさぞら」も GH をやっているのでは？どんな入居者を受け入れているのか？  
→ 恵和で問い合わせる**

#### ②（検討済み 日程調整をこれから行う）

・ 中井やまゆり園 見学

・ 同愛会てらん広場 GH 見学

次回ワーキング： 2026年2月12日(木)15:45～17:30 区役所2F 202会議室

※まちで暮らすネットワーク部会（年間まとめ）の後に開催